

受験番号

氏名

令和7年度 崇城大学 一般公募制推薦選抜入学試験問題

国語

(二/五)

一、次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権により非公表とする。

令和7年度 崇城大学 一般公募制推薦選抜入学試験問題

国語

(三/五)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

著作権により非公表とする。

令和7年度 崇城大学 一般公募制推薦選抜入学試験問題

国 語

(三/五)

受験番号	
氏名	

問一 傍線部①、②、④、⑤、⑥のカタカナは漢字に直し、③の漢字は読みを書け。

問二 傍線部①「矜持」の意味として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 資格 イ 礼儀 ウ 自負 エ 品性 オ 常識

問三 傍線部①「不遜な態度」の「不遜」という言葉の同義語と対義語を、それぞれ一つずつ文中より漢字二字で抜き出して答えよ。

問四 傍線部①「そのための準備」の好例と筆者が考えている具体的な発表の工夫として**適当でないもの**を、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 疑問を持たれないよう丁寧な説明にすること。 イ 内容が理解しやすい図や表の構成にすること。
ウ 自分の研究の位置づけをはっきりさせること。 エ 聴衆が引き込まれるような導入を考えること。

問五 傍線部①について、「研究発表に対する私の考え方」は、以前はどうだったのが、どのように変わっていったのか。「聴衆」という語を必ず用いて、九十字以上、百字以内で説明せよ。

問六 空欄①、②に入る最も適当なものを、次のア～オのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ア つまり イ むしろ ウ だから エ しかし オ やはり

問七 傍線部①「心伝心」のに入る漢字一字を答えよ。

問八 傍線部①「そのずれを修正する」とは何をどうすることか。二十五字以上、三十五字以内で答えよ。

問九 傍線部①「研究者としての適性に欠ける」人は、他人の発表をどのように聞くと筆者は考えているか。最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 相手が嫌な思いをしようとは関係なく、自分がわからないところはしつこく質問攻めにする。
イ 自分ならこうするという関心を持って、相手の発表の内容を自分ごととしてとらえている。
ウ 相手と自分とはもともと違う人間であるということにさえ気づかず、疑問を持たずに聞く。
エ 自分の研究が一番価値あるものだと信じ、相手の優れた発表にも全然耳を貸そうとしない。
オ 相手の研究発表を、疑問点や自分の知識や考えとの相違点などを意識しないで聞いている。

問十 傍線部①「その軋轢」の説明として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 当事者として研究できる者と当事者ではない者との違いから生じる対立。
イ 自分の知っていることと発表から知り得たこととの違いから生じる摩擦。
ウ 研究発表者の見識の深さと自分の信じる世界観との違いから生じる困惑。
エ 外部から入手した知識と自分が抱いてきた解釈との違いから生じる矛盾。

問十一 傍線部①について、「ラボのメンバー」が「よく質問して」いることを筆者が喜んでいる理由を、「質問」の意義をふまえて、九十字以上、百字以内で説明せよ。

受験番号

氏名

令和7年度 崇城大学 一般公募制推薦選抜入学試験問題

国語

(五/五)

七、次の文章は、「熊本の文学」と題してAさんが書いた研究発表文の一節である。文章中の空欄Ⅰ、Ⅱに入る最も適当なものを、あとのア～コのうちから、それぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

「山路を登りながら、こう考えた。知に働けば角が立つ。情に棹さおさせば流される。意地を通せば窮屈きうくつだ。とかくに人の世は住みにくい。」

これは、夏目漱石の小説「Ⅰ」の冒頭部分です。明治二十九年に四国松山中学校から熊本のⅡ高等学校の教師として赴任した経験を持つ漱石は、明治三十九年、熊本のひなびた温泉場を舞台としたこの小説を書きました。浪漫的な低徊ていかい趣味の強い作品だと言われています。「低徊趣味」とは、俗世間の苦勞を避けて、余裕ある気分で東洋的な詩や歌の境地に浸ろうとする態度のことだそうです。

- ア 坊っちゃん イ 二百十日 ウ 草枕 エ 三四郎 オ それから
カ 第一 キ 第二 ク 第三 ケ 第四 コ 第五

受験番号

氏名

令和7年度 崇城大学 一般公募制推薦選抜入学試験問題

国語解答用紙

(三/三)

二、

①

い

②

す

③

④

⑤

三、

①

②

③

四、

五、

六、

七、

I

II

点

国語

工学部・情報学部・芸術学部
(一般公募制推薦)

一 問一

①	興奮	②	招待	③	かも(し)
④	閉口	⑤	就(いて)	⑥	照合

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

二

①	うと(い)	②	ひるがえ(す)	③	きょうりょう
④	しょうよう	⑤	あんのん		

三

四

五

六

七